

はくほうぶつ

白鳳仏について調べるには

? 白鳳仏とは

深大寺にある、仏さまが椅子に腰かける姿をかたどった像です。7世紀につくられたと推測されています。

どうぞうしゃかによらいぞう

正式な名前は「銅造釈迦如来倚像」です。2017年9月に国宝に指定されました。

? 白鳳仏を調べるときのコツ

白鳳仏は色々な名前で呼ばれています。新聞記事やインターネット上の情報を検索する時や、図書館にあ

どうぞうしゃかによらいぞう

る本を検索する時には、通称の「白鳳仏」と正式名称の「銅造釈迦如来倚像」、また「釈迦如来像」などで検索すると、より多くの記事や資料が見られます。

? 調布市からの情報を調べるには

調布市公式ホームページで、白鳳仏に関する情報を発信しています。トップページの右上に表示される青い検索欄に「白鳳仏」と入れて検索ボタンを押すと、関連する記事が見られます。市報に載った記事も、調布市公式ホームページから見られます。



ここから！



白鳳仏に関する本

調布市立図書館では、白鳳仏に関する本を所蔵しています。ここでは、そのなかの一部をご紹介します。

『図説 調布の歴史』T 01 210.1-ス

調布の歴史といえば、まずこの一冊。64・65ページの「仏教信仰の普及」のページに、白鳳仏のことが載っています。白鳳仏のカラー写真もあります。

『子どものための調布市の歴史 第2版』T 01 210.1-コ

83ページに「深大寺の白鳳仏」の項目があります。白鳳仏について、わかりやすい文章で説明しています。白鳳仏の写真（白黒）も載っています。

『深大寺学術総合調査報告書 第1分冊 彫刻・絵画・工芸』 T 01 188.4-シ 1

昭和52年から5か年計画で行われた深大寺の学術調査の結果を、3冊にまとめた報告書の1冊目です。白鳳仏については、4ページから載っています。像の詳細な形状や伝来が書かれており、像を後ろと下から見た写真や内部を見られるγ線写真も載っています（すべて白黒写真）。

『週刊日本の仏像－原寸大－No.42』 T 01 718-シ（貸出できない資料）

この本のすごいところは、なんといっても白鳳仏の原寸大カラー写真が載っているところです。横と後ろから写した写真や、復元想像図も載っています。

『よみがえる天平のいぶき－深大寺白鳳仏厨子と吉田包^{よしだほうしゅん}春－』 T 01 702-ヨ

白鳳仏が収められている「深大寺釈迦如来倚像厨子」は、漆芸家・吉田包春によって作られました。この本は、平成28年11月に深大寺本堂で開催された企画展示の解説パンフレットです。前述の厨子を始める包春作品が、カラー写真で掲載されています。

『はるかなる白鳳のほほえみ－深大寺釈迦如来像と寺のたから－』 T 01 702.1-ハ

平成29年に調布市郷土博物館で行われた深大寺白鳳仏国宝指定記念展のパンフレットです。寺宝、深大寺釈迦如来像、仏教関係の考古資料について紹介されています。

『焼失をのがれた国宝白鳳仏と寺宝の数々－深大寺本堂再建100年記念－』 T 01 702.1-シ

慶応の大火から本堂が復興して100年の記念に、深大寺で開催された展示のパンフレットです。深大寺文書の一部や焼失を逃れた寺宝の紹介に加え、江戸時代の大火と深大寺、慶応の大火からの復興についても解説があります。

『金属 2006/9』 p 79-84、『金属 2006/10』 p 97-101 T 01 581-キ

複合X線分析装置による深大寺釈迦如来像の分析結果がまとめられています。釈迦如来像が、何度かの火災に遭ったこと、唇が赤かピンクに塗られていたことがあったこと、金泥で塗色されていたことがあったことなどが判明しています。

『週刊ニッポンの国宝 100 Vol.50 深大寺釈迦如来/大浦天主堂』 T 01 709.1-シ

日本の国宝を特集する雑誌の、深大寺釈迦如来特集号です。2～17ページに、深大寺釈迦如来の解説や、様々な角度及び原寸大のお顔のカラー写真が掲載されています。鑑賞のポイントや他の白鳳時代の仏像についても紹介されています。

『深大寺金銅釋迦如来倚像』 T 01 718.5-シ

昭和14年の出版物です。明治41年の深大寺釈迦如来像再発見時のエピソードや、釈迦如来像の様々な部位の計測結果が載っています。右耳の長さは2寸9分（約11cm）あるそうです。